

令和4年度 横川西小学校 学校評価書

※ 網掛けのない部分が評価計画、網掛けの部分が評価結果を受けて記入する。

1 教育目標（目指す児童像含む）

生きる力を育む教育活動を通して、心身共に健康で、自ら学ぶ意欲をもち、心豊かな児童を育成する。

児童目標【げんきで かしく やさしい子】

◇健康で がんばる子ども ◇よく考え すすんで学ぶ子ども ◇きまりを守り 思いやりのある子ども

2 学校経営の理念（目指す学校像含む）

一人一人が 自信をもち 輝ける学校づくり

子どもたち一人一人が、学校で学ぶ楽しさ（学習・生活）を実感し、自他を大切に互いが成長し合える学級・学校を目指す。

【目指す学校像】

○子どもたち一人一人に 学ぶ楽しさと心の成長が感じられる学校

○教職員が自分の力を発揮し 働く喜びを味わえる学校

○家庭や地域から信頼される 魅力ある学校

【目指す教職員像】

○教育的愛情と真の優しさ・厳しさをもち 子どもに寄り添い行動する教職員

○協調性と協働性をもち 学び合い向上する教職員

○保護者や地域住民と進んで関わり 信頼される教職員

3 学校経営の方針（中期的視点） ※「小中一貫教育・地域学校園」に関する方針は文頭に○印を付ける。

(1) ○一人一人が「わかる、できる、楽しい」と学びを実感できる授業づくりに努める。

(2) 規範意識や思いやりの心など、一人一人の心づくりに努める。

(3) 健康に関する自己管理能力を育成するとともに、自ら進んで体力づくりに励み、たくましく生きる人づくりに努める。

(4) ○全教職員の共通理解のもと、一人一人を大切にした児童指導の充実に努める。

(5) ○家庭・地域と協働して子どもたちを育てる信頼される学校づくりに努める。

(6) 教職員が協調性と協働性をもち、共に学び合うとともに各々のよさが発揮できる組織づくりに努める。

(7) 校内業務の適正化（明確化や簡略化等）を図るとともに、教職員の健康安全を大切に、指導の質的向上に配慮しつつ持続可能な学校体制づくりに努める。

【陽南地域学校園教育ビジョン】地域に根ざした豊かな心を育む小中一貫教育 ～子どもの自主的な活動を通して～

4 教育課程編成の方針

(1) 本年度の学校教育目標、経営方針の示すところにより、学校の実情、児童の実態を考慮し、特色ある学校づくりが実現できるよう編成する。

(2) 習熟度別学習やTT、教科担任制を取り入れ、「個に応じた指導」「楽しく分かる授業」を展開し、基礎的・基本的な事項の確実な定着が図れる教育課程編成に努める。

(3) 児童の発達段階を考慮し、教科等横断的な視点で、各教科等の関連付けを図りながら教育課程を編成し、カリキュラム・マネジメントの充実に努める。

(4) 地域の自然、文化、伝統などの教育資源を有効に生かす教育活動を編成する。

(5) 児童一人一人の自己肯定感を、学校教育活動全体を通して育成する。

5 今年度の重点目標（短期的視点） ※「小中一貫教育・地域学校園」に関する重点目標は文頭に○印を付ける。

【学校運営】

・互い（児童・教職員）が成長し合い、一人一人が自信をもって輝ける学校づくりを推進する。

○児童の心に寄り添い、一人一人の心が成長する学校づくりを推進する。

○真の優しさ厳しさをもち、児童・保護者・地域を愛し、信頼される学校を目指す。

・業務改善や勤務時間に対する意識改革を図り、学校における働き方改革を推進する。

【学習指導】

- 学ぶ楽しさを実感し、主体的に学びに向かう児童の育成を目指す。
- ・基礎・基本の確実な習得と活用を目指す授業づくりを推進する。
- ・「課題を理解する場、見方・考え方を働かせ課題解決に取り組む場、対話し学びを伝え高め合う場、振り返る場」等の授業の展開の仕方や発問を工夫し、新学習指導要領の趣旨を具現化させる授業を実践していく。
- ・1人1台端末等のICTを効果的に活用し、教科の学びが深まるよう指導の充実を図る。

【児童生徒指導】

- きまりを守ることの大切さや人を思いやる心の大切さを理解し、互いに他を認め合える児童の育成を目指す。
- ・児童の特性の理解と対応、いじめ防止及び早期発見・早期解決、不登校児童への組織的・計画的支援、自己肯定感を高める支援等を工夫する。

【健康（体力・保健・食・安全）】

- ・児童一人一人が、自己の健康・体力に関心を持ち、自己管理能力を高める保健学習・教科体育の実践を図る。

6 自己評価（評価項目のAは市共通、Bは学校独自を示す。）

※「小中一貫教育・地域学校園」に関する方針・重点目標・取組にかかわる内容は、文頭に○印または該当箇所に下線を付ける。

※「主な具体的な取組」の方向性には、A拡充 B継続 C縮小・廃止、を自己評価時に記入する。

項目	評価項目	主な具体的な取組	方向性	評価
目指す	<p>A1 児童は、進んで学習に取り組んでいる。</p> <p>【数値指標】 「児童は、授業中、話をしっかりと聞いたり、発表したりするなど、進んで学習に取り組んでいる。」 ⇒児童・教職員の肯定的回答 90%以上 ⇒保護者の肯定的回答 85%以上</p>	<p>①学習課題の提示の仕方や教材を工夫する。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・児童が興味・関心をもって取り組めるよう学習活動の工夫・改善を推進する。 <p>②基礎・基本の確実な定着を図る</p> <ul style="list-style-type: none"> ・少人数指導・習熟度別学習等の工夫をする。 ・学習形態を工夫し、互いの意見を伝え合う活動を積極的に取り入れる。 ・発表や話し合いの仕方、ノートの活用について系統的・発展的に指導できるよう全教職員で共通理解を図り取り組んでいく。 	B	<p>【達成状況】 児童 92.6% 保護者 90.3% 教職員 93.5%</p> <p>【次年度の方針】 児童・教職員、保護者の肯定的回答の割合は数値指標を上回っている。学習課題や学習形態などを工夫しながら授業を行う成果が出ていると考えられる。学習規律や話の聞き方や話し方については、レッツステイや話の聞き方・話し方などの掲示をもとに、学校全体で指導をしていく。</p>
	<p>A2 児童は、思いやりの心をもっている。</p> <p>【数値指標】 児童・保護者 「児童は、誰に対しても、思いやりの心をもって優しく接している。」 ⇒児童・保護者の肯定的回答 85%以上</p>	<p>①道徳教育の充実を図る。</p> <p>②教育相談やQ-Uの結果等を参考にし、児童の考えや悩みを適切に捉え指導にあたる。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・児童からの悩み相談に対しては、学級担任、学年、学校全体で支援にあたる。 <p>③児童同士が認め合える環境作りとして、構成的エンカウンターやSSTを学級活動等に取り入れていく。また、学校行事や児童会活動、縦割り班活動などの実施方法を工夫するとともに、認め合い活動を行う。</p>	B	<p>【達成状況】 児童 91.7% 保護者 94.7% 教職員 93.5% 地域住民 100.0%</p> <p>【次年度の方針】 Q-Uに関して1・2年生の実施時期は検討が必要。縦割り班活動（遊び）の回数が1学期が少なく、2学期が多かった。コロナ対策を講じながら回数や内容等を検討していく必要がある。</p>

児童の姿	<p>A 3 児童は、きまりやマナーを守って、生活をしている。</p> <p>【数値指標】 「児童はきまりやマナーを守って生活をしている。」 ⇒児童の肯定的回答 85%以上</p>	<p>①基本的な生活習慣と規範意識を育成する。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・「横西小よい子の一日」の周知徹底を図り、守れていない事柄については、学校全体で共通理解を図り、同一歩調での指導を行う。 ・「横西っ子5つのきまり」については、強化週間等を設け、児童への意識付を図っていく。 ・道徳科や学級活動等において、人権の尊重・規範意識の向上に関する授業を実践する中で、児童の意識を高めていく。 	<p>【達成状況】 児童 87.5% 保護者 90.9% 教職員 90.3% 地域住民 100.0%</p> <p>【次年度の方針】 右側歩行はどの階もあまり守られていないようである。休み時間開始・終了時刻に廊下を走るなどの行動が見られるため、教員で見守り等の対策の検討が必要。</p> <p>きまりの徹底については、どうしても「横西小よい子の一日」の内容を忘れてしまいがち（教職員も）なので、次年度は年度初めだけでなく、夏季休業明けや冬休み明けなどに教職員と児童と一緒に内容を確認。</p>
	<p>A 4 児童は、時と場に応じたあいさつをしている。</p> <p>【数値指標】 「児童は時と場に応じたあいさつをしている。」 ⇒児童・地域住民の肯定的回答 90%以上 ⇒保護者の肯定的回答 80%以上</p>	<p>①<u>児童の創意を生かしたあいさつ運動の推進を図る。</u></p> <ul style="list-style-type: none"> ・<u>全児童があいさつ運動に関わることができるよう活動内容を工夫し、取組を強化する。</u> ・「横西っ子5つのきまり」である「いつでもあいさつ」の呼び掛けを行い、意識付けやあいさつの習慣化を図る。また、教職員が率先遂行する。 ・一斉下校の全体指導等において、登下校の際の地域の方へのあいさつの重要性を理解させる。 	<p>【達成状況】 児童 94.3% 保護者 86.3% 教職員 83.9% 地域住民 100.0%</p> <p>【次年度の方針】 児童を中心としたあいさつ運動の効果もあり、時と場に応じたあいさつができる児童は増えてきているので、次年度も教職員があいさつを率先垂範するだけでなく、地域へのあいさつも積極的に行えるよう継続的に呼び掛けていく。</p>
	<p>A 5 児童は、目標に向かってあきらめずに、粘り強く取り組んでいる。</p> <p>【数値指標】 「児童は、夢や目標に向かってあきらめずに、粘り強く取り組んでいる。」 ⇒児童・保護者の肯定的回答 85%以上</p>	<p>①児童の自己肯定感を高められるよう、児童相互に認め合う場を数多く設けるとともに、教職員は認め励ます指導に努める。</p> <p>②各教科の授業や各種検定等において、児童が目標をもって取り組む機会を設け、目標の達成に向けて努力する姿勢を称賛するとともに、学年だより等により保護者へ周知していく。</p> <p>③道徳科の授業において、目標をもって粘り強く取り組むことの大切さに気付かせるとともに、実践への意欲を高める。</p>	<p>【達成状況】 児童 86.7% 保護者 76.7% 教職員 87.1%</p> <p>【次年度の方針】 児童の肯定的回答の割合は昨年と同じであった。しかし、保護者の肯定的割合は回答は昨年度より10%以上下回った。デジタル化への影響と保護者への頑張りへの通知が必要。児童は各教科の授業や各種検定において、個々に目標をもって取り組むことで達成感を味わうことができたようだ。保護者にはこれらの児童の頑張りを含め、今まで以上に周知していく。</p>

<p>A 6 児童は、健康や安全に気を付けて生活している。</p> <p>【数値指標】 「児童は、健康や安全に気を付けて生活している。」 ⇒教職員・保護者の肯定的回答 85%以上</p>	<p>①児童が自分の健康に気を付けて自ら健康を管理できるよう、学級活動、体育、学校行事と関連を図った保健指導や日常生活指導を行う。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・うがい・手洗い等の励行やハンカチ、ティッシュの携行、教室の換気、新たな生活様式に合わせた給食時の手順等について、指導の充実を図る。 <p>②学校給食と各教科等との関連を図った指導のもと、栄養のバランスのとれた食事や望ましい食習慣の形成を図る。</p> <p>③危機を予測し適切な意思決定と行動選択できる力を身に付けることができるよう、日常における安全指導を充実する。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・室内での過ごし方、廊下の歩行や校庭での遊び方など、「横西小よい子の一日」を活用して指導していく。 ・交通事故予防、特に自転車の乗り方について、保護者への協力を依頼する。 <p>④家庭と連携した取組となるよう、便り等により情報を共有し、取組の充実を図る。</p>	<p>【達成状況】 児童 93.3% 保護者 89.1% 教職員 87.1% 地域住民 100.0%</p> <p>【次年度の方針】 児童が 93.3%になるなど全てにおいて目標を達成した。児童が自分の健康に気を付けて自ら健康を管理できるよう、昨年度同様、学級活動、体育、学校行事と関連を図った保健指導や日常生活指導を行っていく。</p> <p>給食時においては、巡回指導等を通して新たな生活様式に合わせた安全な食習慣が定着してきた。次年度もさらなる充実を目指し、継続していく。</p> <p>また、児童が日常生活および災害発生時に、適切な意思決定と行動選択できる力を身に付けることができるよう、引き続き安全に関する取組の充実を図る。生活習慣の改善には保護者の意識や生活スタイルの改善も必要であるため、家庭との情報共有など連携して指導を行う。</p>
<p>A 7 児童は、夢や目標をもって、社会に貢献できるよう努力している。</p> <p>【数値指標】 「児童は、夢や目標に向かってあきらめずに、粘り強く取り組んでいる。」 ⇒児童・保護者の肯定的回答 85%以上</p>	<p>①<u>宮・未来キャリア教育年間指導計画に基づき、児童が自らのよさを自覚して夢や目標の実現に向けて取り組もうとする意欲や、望ましい勤労観や職業観を、全教育活動を通して意図的・計画的に育む。</u></p> <ul style="list-style-type: none"> ・学級活動等で使うキャリアパスポートを活用することで勤労観や職業観を学年の発達段階に応じて育めるようにする。 <p>②家庭や地域社会との連携による体験的活動を実施し、児童が将来の夢や希望を描いたり、実現に向けて努力したりする態度を育成する。また、学校での取組を保護者に積極的に発信していく。</p>	<p>【達成状況】 児童 86.7% 保護者 76.7% 教職員 87.1%</p> <p>【次年度の方針】 キャリアパスポートを持ち帰って保護者に見てもらう機会が少ないため、年度末に学年でそろえて持ち帰るなどして、保護者に見てもらう機会を設ける。</p>
<p>A 8 児童は、英語を使ってコミュニケーションしている。</p> <p>【数値指標】 「児童は、外国語活動(英語)の授業やALTとの交流の際に、英語を使ってコミュニケーションしている。」 ⇒児童・教職員の肯定的回答 85%以上</p>	<p>①外国語や外国語活動の授業を通じて、外国の言語や文化について体験的に理解を深め、積極的にコミュニケーションを図ろうとする態度を育成する。</p> <p>②外国語や外国語活動に関する情報収集や授業を相互に見合う機会を充実させ指導力の向上を図る。</p> <p>③めあてを明確にし、児童が話したい・やってみたいと思える場を設定することにより、英語で会話できたという自己肯定感を育む。</p>	<p>【達成状況】 児童 87.3% 教職員 87.1%</p> <p>【次年度の方針】 児童・教職員の肯定的回答の割合は数値指標を上回っている。主に授業中になるが、ALTの質問に対して英語での受け答えができています。ALTの説明も丁寧で、児童も混乱せずに活動に取り組むことができています。</p>

<p>A9 児童は、宇都宮の良さを知っている。 【数値指標】 「児童は、宇都宮の良さを知っている。」 ⇒児童・保護者の肯定的回答 80%以上</p>	<p>①生活科、社会科、総合的な学習の時間、国語科、道徳科において「宇都宮学」を計画的に実施する。また、市内や地域での校外学習等において、学習内容に関連させながら児童が身近な地域や宇都宮市の良さに気付く指導に努める。 ②教師自身が宇都宮市の歴史、文化、伝統産業、特産物等について理解を深められるよう努める。 ③学校の取組について、各種たよりやHP等で保護者・地域に対しても発信に努める。</p>	<p>【達成状況】 児童 77.6% 保護者 69.3% 教職員 67.7% 【次年度の方針】 児童・保護者の肯定的回答の割合は数値指標を下回った。宇都宮を題材とした授業は限られているので、授業以外でも宇都宮について知る機会を設ける。保護者に対しても、学年だよりやHP等で紹介する機会を設けていく。</p>
<p>A10 児童は、ICT機器や図書等を学習に活用している。 【数値指標】 「児童は、タブレット端末や図書等を学習に活用している。」 ⇒児童・教職員の肯定的回答 90%以上</p>	<p>① <u>タブレット端末等の活用により、主体的・対話的で深い学びを促進するとともに、児童の機器活用能力や情報活用能力の育成を図る。</u> ②学校図書館の学習・情報センターとしての機能の充実を図る。 ③ICTや図書資料を活用した学習に関して、家庭への情報提供を行う。</p>	<p>【達成状況】 児童 87.5% 保護者 76.6% 教職員 96.8% 【次年度の方針】 児童の肯定的回答の割合が数値指標をやや下回っている。ICT機器を授業内で活用する機会は増えてきているが、学年や学級によって差がある。活用事例について共有する場を設けるようにする。</p>
<p>A11 児童は、高齢者に対する感謝やいたわりの心をもっている。 【数値指標】 「児童は、誰に対しても、思いやりの心をもって優しく接している。」 ⇒児童・保護者の肯定的回答 90%以上</p>	<p>①高齢者とふれ合う機会の充実を図る。 ・生活科や総合的な学習の時間などにおいて、高齢者を講師として招いたり高齢者にインタビューする活動を設定したりするなどして、高齢者の知恵や人生経験に学ぶ機会を設定する。 ・道徳科の授業を通して高齢者や障がい者に対して理解を深められるよう努める。</p>	<p>【達成状況】 児童 91.7% 保護者 94.7% 教職員 93.5% 地域住民 100.0% 【次年度の方針】 児童・保護者とも、肯定的回答の割合が数値指標を上回った。コロナ禍で直接交流はほぼ中止となったが、道徳の授業の充実や日頃の人権教育に基づく指導の成果が表れた。今年度予定されていた取組は継続し、感染症対策を考慮しながら実施方法を検討する。</p>
<p>A12 児童は、「持続可能な社会」について、関心をもっている。 【数値指標】 「児童は、環境問題や防災等の『持続可能な社会』について、関心を持っている。」 ⇒児童の肯定的回答 85% 「児童は、『持続可能な社会』について、関心を持っている。」 ⇒教職員の肯定的回答 80%</p>	<p>①各教科等において、<u>学習指導要領等の趣旨を踏まえ、「持続可能な社会」を見据えた授業の充実を図る。</u> ・4年総合「チャレンジごみ探検」 ・5年総合「エソジマモチ」 ②各教科等の授業と学校行事や体験活動、地域社会との連携など、特色のある教育活動を展開する中で、「持続可能な社会」と関連付けられる部分を取り上げていく。 ・「きみの横西」 ・「横川エコの会」グリーンカーテン</p>	<p>【達成状況】 児童 85.3% 教職員 58.1% 【次年度の方針】 児童の肯定的回答の割合は数値目標を上回ったが、教職員は昨年と同様で数値目標を下回っている。総合的な学習を中心に各教科の学習でSDGsについての理解が進んできたが、継続して教育活動全体で「持続可能な社会」づくりに関わる課題を見いだせるようにしていく。</p>

	<p>B1 児童は、家庭学習の習慣を身に付けている。</p> <p>【数値指標】 「わたしは、宿題や自主学習を、目標とする時間以上にやっている。」 「児童は、宿題（自主学習）を含めた家庭学習を目標時間以上やっている。」 ⇒児童の肯定的回答 80%以上</p>	<p>①家庭学習の習慣が身に付くよう個々に指導を進めていく。</p> <p>・「<u>陽南地域家庭学習のヒント集</u>」に基づき、<u>発達段階にあった家庭学習の時間の確保や適切な量の課題を出すようにし、基本的な学習習慣の定着に努める。</u></p> <p>・家庭学習強化週間を設定して、家庭学習の習慣化を図る。</p> <p>・家庭で学習してきた内容に対して、認め励ますとともに、意欲が持続するような手立てを工夫する。</p>	<p>【達成状況】 児童 70.5% 保護者 52.8% 教職員 64.5%</p> <p>【次年度の方針】 肯定的回答の割合は数値指標を下回っている。児童も習い事などで放課後の時間も忙しく、学年の目標時間をどの児童も行うのは実情から難しいと考える。保護者と児童で話し合い、無理なく取り組める約束を結び、それを児童が守ることができれば、児童も保護者も「学習している」という実感を得ることができるのではないか。年度初め学級懇談会などで、保護者への啓発をする。</p>
目	<p>A13 教職員は、特別な支援を必要とする児童の実態に応じて、適切な支援をしている。</p> <p>【数値指標】 「教職員は、特別な支援を必要とする児童や外国人児童等の実態に応じて、適切な支援をしている。」 ⇒教職員の肯定的回答 90%以上</p>	<p>①校内支援委員会等で具体的な指導目標や指導の手立てを設定し、<u>教職員の共通理解のもと指導に当たる。</u></p> <p>・児童の実態把握や児童の特性に合った支援を強化していく。</p> <p>・担任とかがやきルーム指導員が指導記録を交換し連携強化を図る。</p> <p>②特別支援学級における指導の充実を図る。</p> <p>・児童の実態を的確に把握し、一人一人障害特性に応じた指導を行う。</p> <p>・保護者や関係職員と連携を図りながら、交流及び共同学習を積極的に推進する。</p>	<p>【達成状況】 教職員 100.0%</p> <p>【次年度の方針】 校内支援委員会を計画的に行い、教職員が共通理解を行いながら指導に当たることができている。かがやきルーム指導員と連携し合いながら行っていることで、好ましい変容が見られる児童もいる。</p> <p>次年度も保護者と教職員同士の連携を図りながら、特性に応じた指導を行えるようにしていく。</p>
学 校 の 姿	<p>A14 教職員は、いじめが許されない行為であることを指導している。</p> <p>【数値指標】 「先生方は、いじめが許されないことを熱心に指導してくれる。」 ⇒児童の肯定的回答 90%以上 「学校は、いじめ対策に熱心に取り組んでいる。」 ⇒保護者・地域住民の肯定的回答 80%以上</p>	<p>①「横西小いじめ防止基本方針」に基づき、全職員で指導に当たる。</p> <p>② 日常の児童の言動に気を配り、小さなトラブル（SNSトラブル等の防止も含む）も見逃さず、いじめは許されない行為であることを指導し、未然防止に努める。</p> <p>③児童会によるいじめゼロ集会での取組等について、児童会だよりで子どもたちから発信したり、いじめ標語を昇降口校内に掲示したりする。</p> <p>④学校のいじめの未然防止の取組について、各種たよりやHPにより保護者・地域に対し啓発を図る。</p>	<p>【達成状況】 児童 96.4% 保護者 80.7% 教職員 96.8% 地域住民 100.0%</p> <p>【次年度の方針】 SNSトラブルが特に高学年になると目立つようになってきている。次年度は保護者や児童向けに携帯電話やオンラインの使い方の出前講座などを実施し、トラブルを未然に防げるようにする。</p> <p>年度初めに「横西小いじめ防止基本方針」を配付して、教職員に共通理解を図る。</p>

<p>A15 教職員は、不登校を生まない学級経営を行っている。</p> <p>【数値指標】 「先生方は、一人一人を大切に、児童がともに認め励まし合うクラスをつくってくれている。」 ⇒児童の肯定的回答 90%以上 「教職員は、一人一人の児童を大切に、児童がともに認め励まし合う学級づくりを行っている。」 ⇒保護者の肯定的回答 85%以上</p>	<p>①児童相互に認め合う場を数多く設けるとともに、教職員の認め励ます指導に努め、児童の自己肯定感を高める。</p> <p>②児童の状況にあった支援策を検討する。</p> <p>・児童の欠席状況等を把握し、ケース会議等で学校の支援の方針を話し合い、共通理解を図りながら、学校全体で組織的・計画的に支援を行う。</p> <p>・学校の支援方針について保護者の理解と協力を得ながら、同じ目標に向かって支援を行う。</p> <p>③別室登校支援や放課後の個別登校支援の充実を図る。</p> <p>・児童の状態に応じた適切な支援がなされるよう、多様な場の設定や支援策がなされるように努める。</p>	<p>【達成状況】 児童 96.0% 保護者 90.6% 教職員 100.0%</p> <p>【次年度の方針】 ・タブレットを使った個別支援は充実してきているが、取り組み内容に差があり、その共通理解ができていないところが見られる。どの児童がどのような対応をしているのかといった共通理解を次年度は会議などで図っていく。</p>
<p>A16 教職員は、外国人児童生徒等の実態に応じて、適切な支援をしている。</p> <p>【数値指標】 「教職員は、特別な支援を必要とする児童や外国人児童等の実態に応じて、適切な支援をしている。」 ⇒教職員の肯定的回答 90%以上</p>	<p>①外国人児童の受け入れ態勢づくりに努める。</p> <p>・外国人児童の編入学における校内の受け入れ態勢を整える。</p> <p>・必要に応じ、保護者、日本語ボランティア、関係機関との連携体制を確認する。</p>	<p>【達成状況】 教職員 100.0%</p> <p>【次年度の方針】 今年度は週に1時間、日本語の勉強を行っている。来年度も引き続き、外国人児童の受け入れ態勢を整備し、外国人児童の編入学における校内の受け入れをスムーズに行う。また、必要に応じて保護者、日本語ボランティア、関係機関との連携ができるようにする。</p>
<p>A17 学校は、活気があり、明るくいいきとした雰囲気である。</p> <p>【数値指標】 「わたしは、今の学校が好きです。」 「学校全体に活気があり、明るくいいきとした雰囲気である。」 ⇒児童・保護者・地域住民の肯定的回答 90%以上</p>	<p>①適正な学校運営に努める。</p> <p>・学校評価を生かした保護者・地域と一体化した活気ある学校づくりを推進する。</p> <p>・担任と一緒に学級集団で遊ぶ時間を設けるなど児童一人一人を大切に居がいのある学級づくりに努める。</p> <p>・個々の児童の困り感に対し、より丁寧に対応できるよう、家庭との連携を図る。</p> <p>・あいさつ運動の推進を図る。</p>	<p>【達成状況】 児童 89.7% 保護者 91.3% 教職員 93.5% 地域住民 100.0%</p> <p>【次年度の方針】 児童・保護者・教職員の肯定的回答の割合は昨年度より上回った。分散しての授業参観など少しずつ学校を公開する機会が増え、職員から積極的にあいさつや声掛けをしてきた成果が表れたと考える。休み時間は児童と一緒に遊ぶ教員の姿が多く見られた。可能な限り、児童主体の活動や異学年交流の充実も図ることができた。これらの取組を継続していく。</p>
<p>A18 教職員は、分かる授業や児童にきめ細かな指導を行い、学力向上を図っている。</p> <p>【数値指標】 「先生方の授業は分かりやすく、一人一人に丁寧に教えてくれる。」 ⇒児童の肯定的回答 90%以上</p>	<p>①学習指導の工夫・改善を図る。</p> <p>・明確なめあての提示、板書の工夫等指導方法の改善を図る。</p> <p>・思考力を育てるための、書く活動を重視した授業づくりを行う。</p> <p>・習熟度別学習や少人数指導・T T指導等を効果的に実施する。</p> <p>・一人一授業を実施するとともに、授業力向上のためICTを活用した校内研修の充実を図る。</p>	<p>【達成状況】 児童 96.8% 保護者 87.1% 教職員 96.8%</p> <p>【次年度の方針】 児童・保護者の肯定的回答の割合は数値指標を上回っている。めあて・まとめ・ふりかえりの学習の流れに沿って、学習形態や学習内容を工夫した授業展開に努める。</p> <p>効果的なICT活用についても校内研修等で教職員間で連携して共有を図り、指導力の向上に努める。</p>

<p>A 19 学校に関わる職員全員がチームとなり、協力して業務に取り組んでいる。</p> <p>【数値指標】 「学校に関わる職員全員がチームとなり、協力して業務に取り組んでいる。」 ⇒教職員の肯定的回答 90%以上</p>	<p>①学校図書館司書、学校栄養職員、かがやきルーム指導員、スクールソーシャルワーカー、スクールカウンセラー等と連携した取組を充実させる。特に、かがやきルーム指導員、スクールカウンセラーと連携した取組をさらに充実する。</p> <p>②学校図書館司書や学校栄養士について、年間指導計画に位置付け活用の充実を図る。</p>	<p>【達成状況】 教職員 90.3%</p> <p>【次年度の方針】 教職員の肯定的回答の割合は、数値目標を上回った。多様な専門スタッフと連携し、チームとして継続して一丸となって同僚性を高め、協力体制のもと業務に取り組んでいく。</p>
<p>A 20 学校は、教職員の勤務時間を意識して、業務の効率化に取り組んでいる。</p> <p>【数値指標】 「学校は、教職員の勤務時間を意識して、業務の効率化に取り組んでいる。」 ⇒教職員の肯定的回答 85%以上</p>	<p>①業務の改善と勤務時間を意識した働き方改革を推進する。</p> <ul style="list-style-type: none"> 管理職は教職員の毎月の時間外勤務の状況を正確に把握する。 毎月第2・第4金曜日を「ノー残業デー」とし、着実に取組を進める。 教職員は、業務の精選を常に意識して勤務するとともに、「何時まで」「どこまで」などの個人目標を設定して、勤務の効率化を図る。 	<p>【達成状況】 教職員 83.9%</p> <p>【次年度の方針】 教職員の肯定的回答の割合は昨年度より20%近く上がった。校務パソコンを有効活用して業務や授業の効率化を図ったり、「ノー残業デー」を週報や掲示板に分かりやすく示し職員同士で声を掛け合ったりするなどし、一人一人が時間を意識していく。欠席確認や健康チェック、配布物のデジタル化など、ICTの有効活用も継続して行う。</p>
<p>A 21 学校は、「小中一貫教育・地域学校園」の取組を行っている。</p> <p>【数値指標】 「学校は、小学生や中学生が交流する活動を行っている。」 ⇒児童の肯定的回答 85%以上 「学校は小学校と中学校が連携した「小中一貫教育・地域学校園」の取組を行っている。」 ⇒保護者・地域住民の肯定的回答 80%以上</p>	<p>①義務教育9年間を通じた系統的な指導を行う「<u>小中一貫教育カリキュラム</u>」を推進する。</p> <ul style="list-style-type: none"> カリキュラムの地域学校園化・自校化を進める。 地域学校園で授業のきまりを設定するなどして学習の基盤を整える。 乗り入れ授業やあいさつ運動等、小中一貫の取組を学校だより等で紹介し、保護者・地域への周知を図る。 	<p>【達成状況】 児童 76.3% 保護者 74.8% 教職員 90.3% 地域住民 100.0%</p> <p>【次年度の方針】 児童・教職員の肯定的回答の割合が上がった。コロナ禍であるが、対面での乗り入れ授業、地域学校園5校の児童会・生徒会でオンライン交流会議によるあいさつ運動などの情報交換、中学校から分けてもらったヒマワリの種を小学校で育てたことなど、交流を深めることができたためと考える。今後も活動を継続し、小中一貫の取組を学校だより等で紹介し、保護者や地域へ発信していく。</p>
<p>A 22 学校は、地域の教育力を生かした特色ある教育活動を展開している。</p> <p>【数値指標】 「わたしは、地域の企業の方々といっしょに活動することで学習が充実し、楽しい。」 「学校は、家庭・地域・企業等と連携・協力して、教育活動や学校運営の充実を図っている。」 ⇒児童・教職員の肯定的回答 90%以上</p>	<p>①地域の「見守り隊」「自治体」「育成会」等の各団体との連携・協力を推進するとともに、企業等の活用を推進する。<u>地域人材の活用や企業の専門性を生かした学習を推進する。</u></p> <ul style="list-style-type: none"> 上下水道局、税務署、(株)SUBARU、エソジマモチ保存会や白楊高校等、地域企業や団体と連携した授業を計画的に行う。 	<p>【達成状況】 児童 86.3% 保護者 84.1% 教職員 96.8% 地域住民 100.0%</p> <p>【次年度の方針】 児童の肯定的回答は昨年度より少し上がったが、数値目標には届かなかった。地域の「学習支援ボランティア」「見守り隊」「グリーンサポーター」「自治会」「育成会」等、各団体との連携・協力を引き続き推進していく。さらに、地域や市の人材バンクや企業等の活用を推進する。</p>

	<p>A23 学校は、家庭・地域・企業等と連携・協力して、よりよい児童の育成に取り組んでいる。</p> <p>【数値指標】 「学校は、家庭・地域・企業等と連携・協力して、教育活動や学校運営の充実を図っている。」 ⇒保護者・地域住民の肯定的回答 90%以上</p>	<p>①<u>地域人材の活用や企業の専門性を生かした学習を推進する。</u></p> <ul style="list-style-type: none"> ・地域の「見守り隊」「自治体」「育成会」等の各団体との連携・協力を推進する。 ・児童がお世話になっている方や各活動について、活動の様子を掲示することで見える化を図る。 ・学校における取組をHPや学校だより等により、発信していく。 	<p>【達成状況】 児童 86.3% 保護者 84.1% 教職員 96.8% 地域住民 100.0%</p> <p>【次年度の方針】 地域の「学習支援ボランティア」「見守り隊」「グリーンサポーター」「自治会」「育成会」等、各団体との連携・協力を引き続き推進していく。さらに、地域や企業等の活用を図った授業を計画していく。また、学校における取組を学校だより等で紹介したり校内に掲示したりし、保護者や地域へ発信していく。</p>
	<p>A24 学校は、利用する人の安全に配慮した環境づくりに努めている。</p> <p>【数値指標】 教職員・保護者・地域住民 「学校は、利用する人の安全に配慮した環境づくりに努めている。」 ⇒肯定的回答 90%以上</p>	<p>①<u>定期的な安全点検の実施により環境整備を図る。</u></p> <ul style="list-style-type: none"> ・施設・設備・器具・用具等の定期的な安全点検を実施し、点検結果に基づいた維持管理や改善を図る。 	<p>【達成状況】 保護者 89.7% 教職員 96.8% 地域住民 100.0%</p> <p>【次年度の方針】 定期的な安全点検を実施し、危険箇所については、複数の目で確認をするなど、点検結果に基づいた維持管理や改善を継続していく。</p>
	<p>A25 学校は、学習に必要なICT機器や図書等を整えている。</p> <p>【数値指標】 「児童は、パソコンや図書等を学習に活用している。」 ⇒児童の肯定的回答 90%以上 ⇒保護者の肯定的回答 80%以上</p>	<p>①学校図書館司書と連携し、学習に必要な図書を充実させる。</p> <p>②<u>ICT機器を積極的に活用した授業を展開し、機器の活用の充実や整備に努める。</u></p> <p>③ICTや図書資料を活用した学習に関して、家庭への情報提供を行う。</p>	<p>【達成状況】 児童 87.5% 保護者 76.6% 教職員 96.8%</p> <p>【次年度の方針】 児童・保護者の肯定的回答の割合は数値指標を下回っている。学校図書館司書と連携し、調べ学習等に必要な図書を充実させていく。授業中や放課後にICT支援員を活用し、タブレットを利用した学習を充実させる。学年だより等でICT機器を活用した取り組みについて保護者に紹介する。</p>
<p>本校の特色・課題等</p>	<p>B2 児童は食に関する正しい知識と望ましい食習慣を身に付けている。</p> <p>【数値指標】 「わたしは、食事のマナーや習慣をきちんと身に付けて食事をすることができる。」 ⇒児童の肯定的回答 90%以上 「児童は、食に関する正しい知識と望ましい食習慣を身に付けている。」 ⇒保護者の肯定的回答 70%以上 「児童は、食事のマナーや食習慣をきちんと身に付けている。」 ⇒地域住民の肯定的回答 90%以上</p>	<p>①給食指導の充実を図る。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・基本的なマナーの指導を徹底し、偏食指導、栄養指導、衛生指導等、食育指導の充実を図る。 ・児童の食に関する正しい知識、保護者の望ましい食習慣についての意識等に関して調査を行い、必要な指導事項を明確にし、委員会活動とも連携しながら望ましい食習慣の定着を図る。 ・学校での食育指導の内容について、各種便りや学級懇談会を通して保護者に伝え、共通理解のもとで家庭と連携しながら指導していく。 	<p>【達成状況】 児童 87.9% 保護者 69.6% 教職員 83.9% 地域住民 100.0%</p> <p>【次年度の方針】 目標達成数値は指標を下回っているが、保護者児童共に昨年より上回っている。児童に対しては引き続き、毎日の給食時に基本的なマナーを徹底して指導し、食育指導の充実を図る。また、児童の食に関する正しい知識と望ましい食習慣についての保護者の意識調査を行い、必要な指導事項を明確にし、望ましい食習慣の定着を図る。学校での食育指導の内容について、各種たよりや学級懇談会を通して、引き続き、保護者に伝え、共通理解のもとで家庭と連携しながら指導していく。</p>

<p>B3 児童は、規則正しい生活を送っている。</p> <p>【数値指標】 ⇒児童・保護者の肯定的回答 85%以上 「わたしは早寝・早起き・朝ごはんの習慣をきちんと身に付けて規則正しい生活を送っている。」 「児童は、早寝・早起き・朝ごはんなど、規則正しい生活を送るための習慣を身に付けている。」</p>	<p>①健康的な生活を送ることの大切さについて、指導の充実を図る。 ・学級活動・体育での保健指導・家庭科等において正しい知識の定着を図る。 ②生活習慣に関するアンケート等を活用し、児童の意欲付けを図るとともに、保護者への情報提供を行い、家庭と連携しながら指導していく。</p>	<p>【達成状況】 児童 81.4% 保護者 80.1% 教職員 83.9%</p> <p>【次年度の方針】 保護者の肯定的回答の割合は数値指標を下回り、児童は上回った。 学級活動や保健の授業の中で健康的な生活習慣の大切さなどの基礎的な指導を行い、児童が自ら生活習慣を見直したり、保護者と共に改善を図れるようにしたりする。また、アンケート結果の分析をホームページ等に掲載し、保護者への情報提供を行い、家庭と連携しながら指導していく。</p>
--	--	--

〔総合的な評価〕

※「小中一貫教育・地域学校園」に関する方針・重点目標・取組にかかわる内容は、文頭に○印または該当箇所に下線を付ける。

<p>・昨年度のアンケートと比較し、肯定的回答率が同じもしくは上回った項目は、児童の回答項目の約7割強、保護者の回答項目の約6割、職員の回答項目の約8割強であった。また、市の平均と同じもしくは上回った項目が児童の回答16項目のうち4項目となっていた。</p> <p>○A15「教職員は、不登校を生まないう、一人一人の児童を大切に、児童生徒がともに認め励まし合う学級経営を行っている。」では、児童・保護者・教職員の肯定的回答率が、すべて市の平均を上回る結果となった。A18「教職員は、分かりやすい授業や一人一人へのきめ細かな指導をしている。」においても、児童・保護者の肯定的回答率が、市の平均を上回る結果となった。教職員が共通理解を図り、児童一人一人を大切に、みとめ励ます児童指導や一人一人の「わかる・できる・楽しい」を目指す授業づくりが進んだ成果と考えられる。</p> <p>○A21「学校は、『小中一貫・地域学校園』の取組を行っている。」の肯定的回答率は児童・保護者・教職員とも、市の平均を下回ったが、小中一貫の取組については、中学校等と児童会を中心にオンラインでの交流を実施するなどしたこともあり、児童や職員の肯定的回答率は昨年度と比べ高くなった。</p> <p>○A5・7「児童生徒は、夢や目標に向かってあきらめずに、粘り強く取り組んでいる。」の肯定的回答については、保護者の肯定的回答率が昨年度よりも下がった。これは、各教科の学習活動でタブレット端末の活用が大きく増えたこともあり、ノートなどへの繰り返しの練習している機会が減ってきていることも関係していると推察される。</p> <p>・A20「学校は、教職員の勤務時間を意識して、業務の効率化に取り組んでいる。」では、教職員の肯定的回答率が83.9%と昨年度より20%近く上昇した。学校業務の改善が進んだ結果となった。</p> <p>・児童の規則正しい生活に関して、B3「児童は、早寝・早起き・朝ごはんなど、規則正しい生活を送るための習慣を身に付けている。」では、肯定的回答率が児童81.4%で昨年度より約1%高くなったが、保護者は80.1%となり、6%近く低くなった。今後も継続して働き掛けていく必要がある。また、B1「児童は、宿題（自主学習）を含めた家庭学習を目標時間以上やっている。」では、肯定的回答率が児童70.5%保護者52.8%となっており、今後も家庭との連携を継続していく必要性が感じられる結果となった。</p>

7 学校関係者評価

<p>学校は、コロナ感染症対策に配慮しながらも、児童の学習・行事等を工夫し学校教育活動に取り組んでいた。今年度は、地域関係者と児童が直接ふれ合う活動が少しずつ戻ってきた。次年度も、感染症対策に配慮したうえで、地域と学校が連携を図り、地域の人材・教材等を活用した児童の学びの機会の確保や健全育成の取組を行ってほしい。</p>

8 まとめと次年度へ向けて（学校関係者評価を受けて）

※「小中一貫教育・地域学校園」に関する方針・重点目標・取組にかかわる内容は、文頭に○印または該当箇所に下線を付ける。

<p>・今年度の取組を継続するとともに、学習や生活の基礎基本の定着・向上を目指し、保護者と連携を図って取り組んでいく。</p> <p>○規則正しい生活については、食に関する指導の充実を図るとともに、保護者への積極的な情報提供を行い、家庭と連携して指導していく。</p> <p>○小・中学校が連携した取組や地域と連携した活動については、タブレット端末等を活用したり、感染症対策を</p>
--

講じたりしながら、学びの場が保障されるよう実施の内容・方法を工夫するなどして実施していく。

・いじめ対策に関する取組では、いじめの未然防止の取組を継続するとともに、SNSによるいじめやトラブルを防止するための出前講座などを実施し、児童・家庭への啓発の取組を行っていく。